

らーめん世界は北陸で10店舗を展開している。

店を経営する翔志(白山市)の社長・石野康弘は

社員に料理人としての誇りを持たせるため、味の

ばらつき覚悟で手作りにこだわっている。「心が

こもっていればいい。どこのラーメンが一番

うまいか、店同士の勝負や」。

臥薪嘗胆、捲土重来。

石野はそんな思いを胸に秘めた人材を求める。社員は、会社で上を目指す

か、自分の店を持つか。いずれかの野望を秘めて

いてほしい。独立の先陣を安心して任せられる人

材として、石野が真っ先に思い浮かべたのが営業

本部長の河内建二(39)だ

った。

河内が翔志に入社したのは1999(平成11)

年、29歳の時だった。全国チェーンの飲食店に勤

めていた河内は、らーめん世界西泉店の常連で、

石野のラーメンにほれ込んだのだ。面接で石野が

ひしひしと感じたやる気は本物だった。河内は命

令を即、しかも確実に遂行する男として信頼を勝

ち取り、石野の右腕となった。

精いっぱい応援

ことし3月、石野は河内を白山市の翔志本社に

呼んだ。「お前が成功すれば、みんなの夢が目標

になる。独立せい。命令や」。翔志の幹部として

安定した収入が約束された河内とはいえ、石野の

命令に従わないはずがない。不安はなかった。

「石野社長がついてくる」。独立第1号が決まった。

場所はすでに鯖江市の中心部に押さえてある。師匠である永大安(大阪)

の社長・岡田國男が自分にしてくれたように、社

員の独立は精いっぱい応援したいから、開店資金

の1800万円は保証人になって銀行から引っ張

った。5月2日、河内の店がオープンした。店名

は「二代目らーめん世界」。名付け親はもちろん、石野である。

独立のすすめ 「世界」百代目まで



Tシャツの背面には、自分で書いた「天下布技」の文字。夢で終わらせるつもりはない—白山市田中町のらーめん世界松任店

期決算は、売上高約9億円。来年2月には無借金経営となる見通しだ。「使命は社員に誇りを持たせること」。経営状態が盤石だから、社員の独立を後押しできる。

石野はいつも、部下をかつての自分と重ね合わせる。野球部の補欠が、

バレーボールで国体選手になった。「大学を出て、なんでラーメン屋なんか」と周囲に言われながら、岡田の寵愛を受け、独立した。開店早々、

経営危機に陥ったが、今は70人の社員を抱える社長となった。1人でも多く、第2の石野、第2の河内が出てほしい。

「第2の石野を

二代目らーめん世界

は、夢の第一歩に過ぎない。「百代目までいきま

すよ。みんなが全国制覇するんですわ」。大好きな織田信長の「天下布武」をもじったスローガンは「天下布技」。石野のラ

ーメンが、北陸の枠を越えて日本中に広まっている。

(道上宗雅)

(第33話おわり)